水産放浪歌

の女性に恋するを純情の恋と誰が言うぞ。

目下り四場でて眉をきる女生であれ青り舞ならげっかってかば、こび、ラーじょせい しゅんじょうかれん 雨降らば雨降るもよし風吹かば風吹くもよしあめる ある

女の膝枕にて一夜の快楽を共に過さずんば人生夢もなければ恋もなし。 月下の酒場にて媚を売る女性にも純情可憐なる者あれ。
ザッか きかば こと う じょせい じゅんじょうかれん もの こく雷鳴るいらいめい

心猛くも鬼神ならず

波の彼方の南氷洋

胸に秘めたる大願あれどりません。 ちょう たいがん みょう たいがん みょう

行きて帰らじ望みは待たじ

換え歌と推定される。(仲田三孝作詞、川上義彦作曲)の注 成立事情不明なるも蒙古放浪歌